四日市市教育委員会
平成 28 年(2016 年)9 月 8 日発行

故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る

日永地区文化財を
守ろう　活かそう　引き継ごう

日永地区は、東海道とともに発展してきたまちで名所旧跡が数多く残り、東海道最古の道標や名残りの一本松、東海道と伊勢参宮道の分かれ道「日永の追分」などが知られています。その中でも「日永の追分」は昭和13年に県史跡に指定され、この鳥居は、江戸時代の安永年間の１７７４年に伊勢神宮を遥拝する鳥居として建立されたもので、伊勢神宮の式年遷宮に合わせて建て替えが行われています。当時の日永村から現在まで脈々と引き継がれ、今では日永地区連合自治会の管理となっています。

往時の様子

四日市市立博物館所蔵（画像に一部加筆）

「日永の追分」の位置図

こんないい伝えがあります。
県史跡「日永の追分」鳥居の由来をひもとくと・・・・・

由来書

安永二年（一七七三年）江戸で橋屋という酒屋をやっていた渡辺六兵衛という人が、故郷が伊勢であり、日永の追分を通るたびに、江戸から京都へ向かう人が、ここで伊勢神宮を遥拝すればありがたいと思うのではないかと考え、是非鳥居を建てたいと思い、神戸藩や幕府の道中奉行の許可を得て翌三年（一七七四年）六月、木造神明造りの神宮遥拝鳥居一基を奉納し、今後建て替えの資金として私財金百両を日永村に寄託した。そして、建て替えは皇大神宮の式年遷宮と同時に行うことを日永村と取り決めた。

その後第一回の建て替えは、三十五年目の文化六年（一八〇九年）に行われ、現在に引き継がれている。

造営年次

第１次	安永３年　(1774 年)
第２次	文化６年　(1809 年)
第３次	文政 12 年 (1829 年)
第４次	嘉永２年　(1849 年)
第５次	明治２年　(1869 年)
第６次	明治 22 年 (1889 年)
第７次	明治 42 年 (1909 年)
第８次	昭和４年　(1929 年)
第９次	昭和 50 年 (1975 年)
第 10 次	平成 28 年 (2016 年)